

自閉スペクトラム症児の社会的定位に関する実験的研究

藤原 美桜

【序論・目的】社会的認知能力とは、対人的場面で必要とされる認知能力であり、代表的なものに共同注意や心の理論などがあるが、自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder: ASD) 児には、こうした社会的認知能力に障害が見られる (Leekam, 1997; Baron-Cohen ら, 1985)。社会的動機付け仮説では、ASD 児は社会的定位が弱く、人の顔などの社会的なものに注意が向きにくいいため、社会的学習が阻害され、結果として社会的認知能力が低くなると考えられている (Chevallier et al., 2012)。しかしながら、ASD 児の社会的定位と社会的認知能力の間の関連を調べた研究は少なく、両者の関連を示した研究はほとんどない。そこで本研究では、児の社会的定位について調べ、社会的定位と社会的認知能力との関連について ASD 児と定型発達 (TD) 児で比較検討し、ASD 児に対する適切な介入方法について考察することを目的とする。

【方法】アイトラッカーを用いて、ASD 児と TD 児を対象に社会的定位課題と社会的認知課題を行った。社会的定位課題では、静止画と動画を用いて、児の社会的刺激と非社会的刺激に対する興味の強さについて調べた。静止画の非社会的刺激は、ASD 児が興味を抱きやすい HAI (high-autism interest) と ASD 児が興味を抱きにくい LAI (low-autism interest) を用いた。社会的認知課題では、児の視線追従 (共同注意行動の 1 つ) と潜在的心の理論の能力の有無について調べた。また、共同注意行動尺度という質問紙を用いて、共同注意に関する発達年齢を示す JA 得点を算出した。

【結果・考察】社会的定位課題に関しては、静止画では、群間 (ASD・TD) で総注視時間割合に差は見られなかった。一方、動画では、TD 児が ASD 児よりも社会的刺激をより長く注視していた。また、TD 児では非社会的刺激よりも社会的刺激をより長く注視していたが、ASD 児ではそのような傾向は見られなかったことから、ASD 児は TD 児よりも社会的定位が弱いことが示された。このように、ASD 児の社会的定位が弱い傾向が動画のときにだけ見られたことから、ASD 児の社会的定位の弱さは、社会的なものもつ複雑さや予測可能性の低さに起因するものであると考えられる。

社会的認知の発達の初期段階を評価する共同注意行動尺度では、ASD 児は TD 児よりも JA 得点が低く、ASD 児は共同注意の能力の発達に遅れが見られることが示された。一方、視線追従や潜在的心の理論の能力は、ASD 児と TD 児の間に有意な差は見られなかった。これについては、研究参加児の集中力の低下や課題の手続き上の問題が影響した可能性が考えられる。

最後に、社会的動機付け仮説について検証するため、社会的定位課題における各刺激に対する総注視時間割合と、社会的認知課題の成績や共同注意行動尺度により得られた JA 得点の間の関連について調べた。その結果、両者の間に関連が見られ、ASD・TD を問わず、社会的定位が弱い児ほど社会的認知能力が低い傾向が見られた。特に ASD 児に関しては、非社会的刺激が HAI のときにその傾向が顕著に現れたことから、ASD 児は HAI のものに対する興味が強すぎるために社会的定位が弱くなり、結果として社会的認知能力が低くなってしまふ可能性が示唆された。

以上より、ASD 児の社会的定位が生じにくい理由は、社会性の度合いではなく、社会的なものもつ複雑さや予測可能性の低さのためであり、ASD 児は社会的定位が弱いことで、社会的認知能力が低くなっている可能性が示唆された。したがって、社会的定位の弱い ASD 児に対しては、より単純で予測可能な関わりかけをすることによって、社会的認知能力を向上させることができるのではないかと考えられる。(比較発達心理学)